



白 門 板 橋

2004. 9. 15 VOL. 22

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部
発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL03-3550-3300



■総会での「あいさつ」——
特色ある支部づくりを!!

支部長 小日向 孝介

* *
本日、大学並びに学員会本部役員をお招きして、第十六回板橋区支部定時総会を開催しましたところ、このように多数のかたがたのご出席をいただき、誠にありがとうございます。

政府発表をはじめ、新聞、テレビ等により景気回復がしきりに報道されておりますが、未だ国民一般に浸透するまでには至っておりません。一日も早く安定した経済生活を取り戻し、大学が目標とする百二十五周年記念事業の実現に向けて、強力な追い風となることを期待してやみません。

先般、学員会本部において役員人事の異動があり、新会長に元建設大臣の中山正暉氏が就任しました。当支部からは、幹事に岩澤忠弘会員が、協議員に栗原泰房、平山惟美、池田亘利、大野正浩会員がそれぞれ就任しました。各位のご活躍と支部に対する指導連絡をお願い致します。

会員の皆様の絶大なご支援により、平成十五年度の各行事は、計画どおり終了することができました。本日、その事業や決算の報告、そして策定した新年度の事業計画及び予算案等について、ご審議いただくことになりました。どうか活発なご意見と慎重なご審議をいただきたいと思っております。

当支部の役員改選につきましては、先日の幹事会において別掲のとおり選任されました。本日も承認いただければ、役員一同一体となって、ブロック制度の有効活用、地域活動への積極的参加等特色ある支部づくりに邁進したいと思っておりますので、皆様方の温かいご指導とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

支部ニュース

定時総会に七一名が参加

平成16年度・支部定時総会が去る6月19日(土)午後6時から区立文化会館大会議室で開かれました。

当日は学員会本部から中西副会長、長田顧問に母校中大から福田事務局長を来賓に迎え、総勢71名が出席し、盛やかな集いとなりました。



総会は池田幹事長の司会で開会し、冒頭に物故された二名の会員に全員で黙祷を捧げてから、小日向支部長にあいさつをいただき、議事に入りました。

議事では、全五議案が原案通り承認可決され、岩澤副支部長から一二五周年記念募金をお願いを兼ねた閉会の挨拶で、総会を終了しました。

記念撮影を経て、小休止のあと第二部の懇親会に移りました。

懇親会は新任の徳永副幹事長の司会で始まり、まず石塚顧問から挨拶をいただき、来賓の三名からはそれぞれ祝辞をいただき、関常任幹事の発声で乾杯。

歓談の間、祝電の披露と新入会員二名の自己紹介があり、場内から盛大な拍手が送られました。

例年と変わらない懇親会であっても、少しずつ顔ぶれが入れ替わるせいか、歓談に花が咲き進行了ました。宴たけなわになった頃、中三川常任幹事のリードで恒例の「校歌」・「応援歌」・「惜別の歌」を全員が輪になって歌い、散会しました。

(池田記)

花も人も超満開

支部観桜会は、四月三日(土)絶好のお花見日和に恵まれて、都立赤塚公園で開催されました。

桜は満開、人も四三名の参加を得て大賑い。中路代表世話人を始めとする高島平ブロックの面々の周到な準備とあいまって、会場の熱気は一気に盛り上がっていった。

蓮根「よし色」から取り寄せた仕出し弁当が好評で、たつぷり用意されたビール、ウイスキー、ワイン、日本酒に焼酎の味を一段と引き立ててくれた。

散り始めた桜の花びらが盆に舞い落ちて、風情も格別。肩組み合って「惜別の歌」で散会するまでしっかりと日本人の春を堪能しました。

(金子記)



▲会場の都立赤塚公園にて

■秋の旅行は

越後路を訪ねる

☆☆☆

支部恒例の秋の旅行日程等が、次のとおり決定しました。

*

▽日時

11月13日(日)～14日(日)

▽旅行地

湯ノ谷村と越後大湯温泉・ホテル「湯元」を訪ねる。

▽会費

二九、五〇〇円

▽交通機関

バス貸切り

▽申し込み方法

同封の「申し込み書」で旅行幹事あてに

■訃報

▽濱 廠(25年経)

・平成十五年六月 逝去

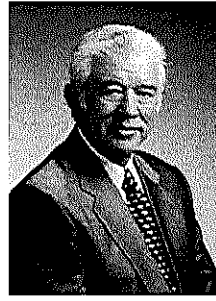
板橋区常盤台一ノ四六ノ四

・前板橋区支部長

(事務局)

母校のニュース

学員会長に中山正暉氏就任



学員会本部では、任期満了に伴う本部役員の見直しが行われ、二期九年にわたる大西 保会長の後任として、中山正暉氏(30法・国会白門会)が新会長に選任されました。

また同時に幹事及び協議員等の選挙も行われ、本支部から次の会員が選任されました。

(敬称略)

- ▽幹 事 岩澤 忠弘
- ▽協議員 栗原 泰房
- ▽同 平山 惟美
- ▽同 池田 巨利
- ▽同 大野 正浩

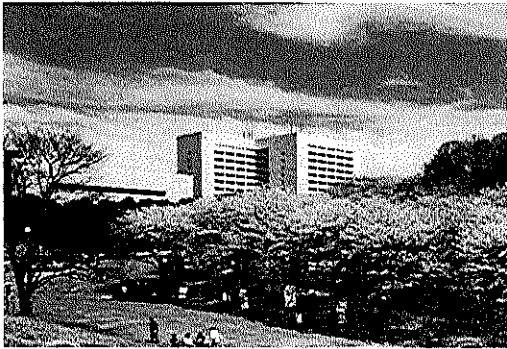
新方式で

ホームカミングデー

十月二十四日(日)

恒例のホームカミングデーは、従来の特定卒業年次生をメインゲストとする方式から全学員を対象とする方式に改められ、来る十月二十四日(日)に多摩校舎で実施される。

当日は講演会、物産展、模擬店福引抽選会、音楽会、落語会など多彩な催しが用意されているとのことです。奮ってご参加下さい。



▲多摩キャンパス

小日向支部長を表彰

*

学員会本部は、去る五月十五日開催の学員総会の席上、当支部長



小日向支部長

小日向孝介氏を含む十一支部長を永年支部長として功労があったとして、表彰した。

▲注▼

平成八年八月 支部長就任現在に至る。

野球部春季リーグは二位

*

東都大学野球の春季リーグ戦は、大混戦のなか、会田有志君(文3)がエースに成長、優勝は逃したものの、健闘して二位に躍進した。これは一部昇格後の最高の成績であり、秋季リーグ戦が期待される。

- ・春季リーグ戦順位
- 優勝/日 大 四位/東洋大
- 二位/中 大 五位/青学大
- 三位/亜 大 六位/駒 大

■全日本大学駅伝

予選会を三位で通過

昨年九位に終わり、本大会出場を果たせなかった全日本大学駅伝予選会が、去る六月十二日に国立競技場で行われ、本学は辛うじて三位(出場枠四位迄)を確保して、出場を決めた。

この結果、三大駅伝(出雲・伊勢・箱根)すべての出場が決まりました。

(栗原記)

母校三五周年記念事業

寄付金の進捗状況

一三五周年記念事業の寄付金が伸び悩み、都区内支部四位の座から転落、中野区支部に次ぐ六位になった。

七月五日現在で、

三、七九〇、〇〇〇円

会員の皆様のご協力が待たれます。

定時総会決議事項のご報告

開催日 平成十六年六月十九日
会 場 区立文化会館

第十六回・定時総会の決議事項を次の通りご報告申し上げます。

■第一号議案

平成十五年度事業報告

* 大野事務局長から次の通り報告があり、異議なく承認されました。

四月五日(土) 支部観桜会 常盤台ブロック 37名
四月二六日(土) ゴルフ同好会コンベ ① 23名
四月二六日(土) 於：浦和ゴルフ倶楽部 23名
四月二六日(土) 囲碁同好会月例会 約12名
五月 九日(金) 於：西池会館 毎月第3土
五月 九日(金) 総会、学術講演会準備会議
於：喫茶ルノアール 5名
五月二三日(金) カラオケ同好会第一回大会 19名
於：大山

* 五月二〇日(金) 常任幹事会兼幹事会 51名
於：区立産文ホール

* 六月 七日(土) 江東区支部創立総会 21名
於：ホテルイースト21東京3名
六月二二日(木) 定時総会準備打ち合わせ 6名
六月二二日(木) 喫茶ルノアール 6名
六月二二日(土) 学術講演会 140名
於：区立文化会館大会議室

(一般45名含む)

七月一七日(木) 会報編集会議 5名
七月二三日(水) 於：日本シャッター協会
七月二三日(水) 都区内支部連絡会 3名
八月二二日(金) 於：中大後楽園キャンパス2名
常任幹事会 27名
於：レストラン・サンイチ

八月二九日(金) 会報編集会議(『白門板橋』) 47名
於：日本シャッター協会 5名
九月 九日(火) 会員名簿チェック 5名
於：喫茶・宝石
九月一七日(水) ゴルフ同好会コンベ ② 27名
於：21センチユリークラブ
九月一八日(木) 富岡ゴルフコース 24名
会報等発送業務 13名
於：文化シャッター研修所
一〇月二二日(金) ゴルフ同好会コンベ ③ 16名
於：ノーザンザン錦ヶ原ゴルフ場
一〇月一六日(火) 実務担当役員会 12名
於：サンイチ
一〇月一九日(金) カラオケ同好会第二回大会 18名
於：大山・ベルフラワー
一〇月二七日(土) 都区内支部連絡会 3名
於：文京区役所スカイホール
一一月二九(三〇日(日) 房総の旅 27名
一二月一六日(土) 役員会/喫茶ルノアール 7名

一二月二〇日(土) 忘年会 47名
於：よし邑
▽平成一六年
一月三一日(土) 新年会(新春の集い) 74名
於：区立文化会館大会議室
二月一一日(月) 編集会議 6名
於：喫茶ルノアール
三月一〇日(水) 会報等発送業務 11名
於：文化シャッター研修所
三月一一日(木) 都区内支部懇親会
於：中央大学後楽園校舎 3名
三月一五日(月) 常任幹事会
於：文化シャッター研修所21名
以上

ホームミングデー

日時/10月24日(日)
会場/多摩キャンパス

*

日 時/10月24日(日)
会 場/多摩キャンパス

平成15年度・収支決算報告書
(自平成15年4月1日～至平成16年3月31日)

【 取 入 の 部 】 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
年会費	600,000	552,000	A 48,000	3,000円×184名
総会費	490,000	621,280	131,280	7,000円×59名
旅行会費	840,000	905,000	65,000	寄付金138,860 寄付金79,000
親睦会費	148,000	148,000	0	4,000円×37名
新年会費	560,000	531,000	A 29,000	7,000円×74名
忘年会費	200,000	235,000	35,000	寄付金12,000円
常任幹事会費	100,000	125,000	25,000	2,000円×22名
幹事会費	80,000	102,000	22,000	5,000円×47名
大会費	100,000	103,750	3,750	2,000円×27名
会取利息	13,000	14,444	1,444	2,000円×51名
雑収入	0	28,000	28,000	中央大学学債・第3回利息
前年度繰越金	1,935,589	1,935,589	0	
計	5,066,580	5,301,663	235,074	

【 支 出 の 部 】 (単位:円)

科 目	予算額	決算額	増減額	備 考
総会費	490,000	493,670	3,670	文化会館
旅行会費	840,000	925,000	85,000	11,200部 房総・勝湖温泉 支那負担金10,000 常盤台公園
親睦会費	148,000	148,000	0	とし原
新年会費	200,000	226,529	26,529	文化会館
忘年会費	560,000	372,240	A 187,760	1,301 文化会館 他1回
常任幹事会費	100,000	131,900	31,900	2,300 文化会館 他1回
幹事会費	80,000	104,700	24,700	2,200 文化会館 他1回
大会費	230,000	219,550	A 10,450	2,200 文化会館 他1回
印刷費	50,000	24,150	A 25,850	総会資料他
通信費	120,000	211,630	91,630	会報送料 3回分他行事案内4回
事務用品費	50,000	0	A 50,000	
雑費	50,000	0	A 50,000	
事務用品費	30,000	0	A 30,000	
同好会補助費	130,000	63,000	A 67,000	他支部総会出席及び会員見舞金
同好会手数料	50,000	30,000	A 20,000	題辞、2777, 147部
送金手数料	10,000	9,585	A 415	年会費振込料他
寄付金	100,000	100,000	0	中央大学125周年記念事業寄付金
役員増強費	100,000	97,723	A 2,277	3年度分発表
雑費	30,000	17,990	A 12,010	
前年度繰越金	1,648,589	2,125,996	477,407	
計	5,066,580	5,301,663	235,074	

貸借対照表

(平成16年3月31日現在) (単位:円)

資産の部			負債・剰余金の部		
科 目	構 要	金 額	科 目	構 要	金 額
現金	手元貯蓄	0	未払い費用	3月発行会報代	89,750
郵便振替口座	3-568829	631,280			
郵便貯金	69518001	750,166			
郵便定期貯金	3728043	72,000			
普通預金	東横借金・板橋	1,000			
前払金	8月総会会場手	52,300			
	約集他				
	大学債残高	700,000	繰越剰余金		1,935,589
投資有価証券			当期剰余金		180,407
計		2,225,746	計		2,225,746

以上のとおり決算報告致します。

平成16年6月19日

支部長 小日向 孝介◎
会 計 久米 英雄◎
会 計 益田 永治◎

以上、支部決算につき監査の結果、適正かつ適法に表示していると認めます。

平成16年5月20日

監 事 栗原 泰房◎
監 事 森 英正◎

■第二号議案
平成十五年度・収支決算報告
* * *
益田会計幹事(常任)から、次表のとおり報告の後、栗原(泰)監事が監査報告があり、満場異議なく拍手をもって承認可決されました。

■第三号議案
平成十六年度・事業計画
* * *
大野事務局長から、下記のと

おり説明があり、満場異議なく拍手をもって承認可決されました。
一、定時総会及び懇親会
六月十九日(土)午後六時
会場/区立文化会館大会議室
二、親睦会の開催
観桜会 四月三日(土) 済
旅行会 秋に予定
忘年会 年末に予定
新年会 一月に予定
三、他支部との交流
* 都区内支部連絡会等

四、中央大学創立一二五周年記念事業への協力
五、支部会員増強運動
*今年度も継続してブロック別に展開する。
六、会費納入率アップの推進
七、同好会活動の促進
八、広報活動
* 会報『白門板橋』発行
・ 囲碁同好会(毎月第四土曜)
・ ゴルフ同好会 (三・九月)
・ カラオケ同好会(五・十月)
・ パソコン同好会(随時)

九、支部会員名簿の作成
* 中央大学学員時報への寄稿
* 改定版の発行
十、その他
以上
■年会費納入のお願い
* * *
未納の会員には、郵便振替払込取扱票を同封しました。納入下さい。

隆慶一郎文学拾い読み



『見知らぬ海へ』

著者／隆慶一郎
発行所／株式会社講談社

物語は、天正七年九月、武田家の海将・向井正重の守る持舟城が織田・徳川の連合軍によって陥落するところから始まる。

■著者プロフィール

大正十二年、東京生まれ。本名池田一期。昭和二十三年に東大仏文科卒業。立大講師、中大助教授（34年辞任）のかたわらフリーのシナリオライターとして活躍。「にあんちゃん」でシナリオ作家協会賞受賞。六十歳の還暦を迎えた年に小説家に転身、「週刊新潮」に小説「吉原御免状」を発表。六十六歳に肝硬変で亡くなるまで時代小説二十点を遺した。

本書は、六十二年七月から「小説現代」誌上に連載され、作者の急逝により未完となっていたが、作者の死後一周忌を記念して刊行された。



も確かにある。だがそれは奇襲の場合であり、さもなければ荒天の場合に限る。春先の海は荒れやすいのだが、生憎なことにこのところ好天続きだった。

要するにこの海戦は、どう計算したところで勝てる訳がない。負ければ船を沈められる。あるいは捕獲される。

三月十四日の夜は、詠えたような暗夜だった。西の方から漸く天気が崩れようとしていて、厚い雲が空にたち籠めていたのである。

月も星も見えず、強い風だけが吹いていた。まさに絶好の奇襲日和である。

戦さは数ではない、いくさ人の気力だと勝頼はいうだろうが、それは山育ちの素人だからである。海に出てしまえば、気力一つでは船も動かない。寡よく衆を制する、という場合

著者・隆慶一郎は、中大助教授で法学部の学生に仏語を教えていたから、板橋区支部にも池田一期（本名）先生の授業を受けた者もいる筈で、バルザックの作品をテキストに使ったに相違ない。

第2外語に仏語を履修した私だが、学部違いで池田先生とはスレ違いになり、惜しいことをした。寝苦しい夏の夜でも、隆文学は楽しく読めた。

（平山記）

（平山記）

大相撲七月場所
中大出身力士の星取表

玉春日関が健闘

九月場所再入幕へ

○●○

▽出島（武蔵川）

本名・出島武春 平8卒

西前頭4枚目 7勝8敗

▽裏風（尾車）

本名・成田 旭 平14卒

東前頭5枚目 6勝9敗



▽玉春日（片男波）

本名・松本良一 平6卒

西十両筆頭 11勝4敗

▽魁道（友綱）

本名・田中康弘 平10卒

東十両10枚目 6勝9敗

▽中尾（松ケ根）

本名・中尾浩規 平7卒

幕下西42枚目 4勝3敗

（池田記）

■江戸期から中丸村

中丸の地名が歴史資料に最初に出てくるのは、永禄二年（一五五九年）の小田原衆所領役帳の中です。

西光院門前の石橋供養塔（高さ約六〇センチメートル）には

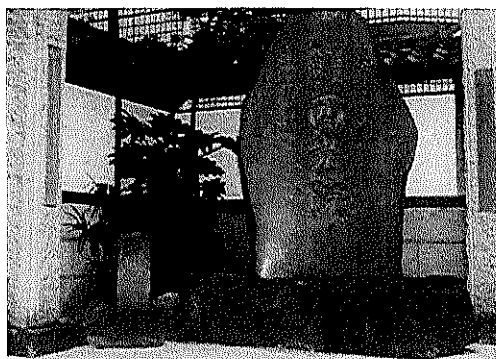
地名の由来…⑭

「中丸」の巻

「武州豊島郡中丸邑」延享二年（一七四五年）と刻されており
江戸期よりずっと中丸村でしたが、明治二十二年の町村合併により北豊島郡板橋町大字中丸となりました。

中丸村の範囲は、現在の熊野町中丸町、南町です。このように小さくなって旧名が残っていくものを縮小現存地名といえます。

村に古くからつづく士族には、庄野・岩田・田中・荒井・浅香等の各氏があります。元禄の頃、名主をしていた庄野氏の子孫の庄野



▲写真は西光院門前の石橋供養塔

之章氏は、「昔、中の丸と言っていた由緒ある村名である。」と言っていたそうです。

現在の中野区にあった中野村と間違えそうなこともあってか、中丸に変化していったものと思われます。中丸のマルは、昔の朝鮮の山を意味する語と言われます。

ただ山と言っても山岳の意味ではなく、台地、丘陵、林にも用いられており、「丸」は地区画を意味する地名だとする説もあります。

ですから、中丸と言うと本丸、二の丸などの言葉の連想から城に関係のある地名のように思われますが、村の「中央の区域」とするのが正しいのかも知れません。

■飛地が多い中丸町

中丸は、埼玉県をはじめ各地にあります。板橋区の中丸町(村)で特徴的なのは、飛地が多かったことでしょう。中丸村内に池袋の飛地が、四カ地名十三カ所あり、村の面積の約三割にものぼっていました。これは当時の領主支配制度に関係があったものと思われまます。中丸村は、五人の領主と代官所領でした。しかし、隣の池袋村は領主が七人で、知行高を公平にするため、中丸村の一定の生産高のある地域を与えられたことや、同じ知行分けの場合、地域分だけでは過不足を生じるため、百姓を軒別で分けるので同一人の所有別土地が飛地になった等々が原因と考えられます。

取材に当たり、先輩の清水治男氏にお世話になり、厚くお礼申し上げます。（中三川記）



編集後記

●：高校野球とアテネ五輪閉幕とともに、どうやら暑くて長い夏も終わつたようだ。深夜の五輪のTV中継に見入って、時差ボケのような体調での編集は、キレ味がいまひとつ。

●：作家・隆慶一郎のペンネームは、浅草・田原町にある居酒屋の女将が名付け親だと言われる。文学を語る女将に会ってみたいが、既に亡くなってしまった。

●：シリーズ「地名の由来」では、今回も郷土の歴史に詳しい先輩から懇切な指導をいただいた由、ありがたく感謝申し上げます。また、仕事の傍ら取材に駆け回った中三川記者には、慰労のビールを存分に飲んでもらいたい。（平山記）